

温泉津重要伝統的建造物群保存地区（温泉）

温泉津の温泉は、1,300 年以上前に発見されたと言われています。言い伝えによると、この癒しの湯に最初に気付いたのは、旅をしていた僧侶で、その僧侶は、湯気の立つ水たまりに浸かって、ひどい傷を癒やしている古狸を目にしたのです。この話は平安時代（794 年～1185 年）には遠く京都まで伝わっていたとされていますが、温泉津の泉に人々が頻繁に訪れるようになったのは 14 世紀に入ってからで、この時期に温泉津は療養地として有名になりました。江戸時代（1603 年～1867 年）には、盛況な温泉津の港に船を停泊させる船員の宿泊施設として旅館が誕生しました。1918 年の鉄道駅開業により海運業が打撃を受け、1923 年に石見銀山が閉山して地域がさらに衰退してからも、温泉は温泉津の町を支え続けました。現在、温泉津は温泉街として日本で唯一保存地区に指定されており、2 つの温泉浴場が存続しています。元湯は、その 2 つ浴場の中でも歴史が古く、2 つの小さな浴槽が特徴です。1 つは 42°C まで冷まされた湯を張った浴槽で、もう 1 つの浴槽はほとんど耐えられないほど熱い 46°C から 47°C のお湯が張られています。浴場の外には、「飲用の温泉水」をかけ流す蛇口があります。だんだんと好きになる味ですが、コップ一杯に制限して飲む限り、健康に良いとされています。もう一軒の薬師湯は、初めての人にも入りやすく、町を見渡せる屋上テラスもあります。